

漁師さんの森づくり

宮城県気仙沼市で、カキやホタテの養殖業を営む畠山重篤さん（59歳）は、漁民による植林活動を続けています。漁師の畠山さんが、なぜ植林をするようになったのでしょうか。

三陸地方の気仙沼湾は、リアス式の海岸で、森が海のすぐ近くまでできています。畠山さんは、この豊かな自然に囲まれて育ちました。地元の水産高校を卒業した畠山さんは、家業の養殖業に従事しました。仕事は順調でした。

ところが、昭和三十九年（一九六四年）、急にカキの育ちが悪くなり、白いはずのカキの身が赤くなってしまいました。原因は、海水が汚れて赤潮プランクトンが大量に発生したためでした。この状態は、それから五年間も続きました。その間、仲間も多くがカキの養殖をやめていきました。

畠山さんは、苦しい生活の中、海が元のように戻らないか勉強しました。畠山さんの家の近くにはカキの研究所があり、そこの今井丈夫博士は世界にほこる研究成果を発表していました。今井博士を慕って各国から研究者が集まって来るほどでした。

畠山さんは、そこでフランスから来ていた女性の研究者と知り合いになり、古い歴史を持つフランスのカキ養殖業を見てみたいと思うようになりました。そして昭和五十九年（一九八四年）、それが現実になりました。畠山さんは、フランス最大の川、ロワール川河口で行われているカキの養殖を見学しました。その地方は、畠山さんの住む三陸リアスの海に似ていました。現地をよく調べてみると、ロワール川の流域が広葉樹の大森林地帯であることに気づきました。

ナラやブナなどの広葉樹の森が、野生の動物や鳥を育て、川の生き物をはぐくみ、さらに河口付近の沿岸の生き物をも育てていたのです。

日本に帰った畠山さんが注目したのは、気仙沼湾に注ぐ大川でした。その流域を調査してみると、スギの木が多く、広葉樹が少ないことが分かりました。広葉樹の森は、葉が落ちて腐葉土になり、肥えた土ができます。その養分が大川を流れて気仙沼湾に注ぎ、海の生き物を育てるのです。

また畠山さんは、次のようなことに気づきました。大川の上流には室根山があり、その八合目には室根神社があります。この神社のお祭りは、大川の河口の漁民が船を出し、室根山が見えるところまで行き、その海水を汲んで神社にさげることから始まります。このお祭りは千二百年の歴史があります。昔の人は、こうした儀式をとおして森と海とのつながりを大切にしていたのではないだろうか、と。

こうして畠山さんは、カキの養殖仲間にも広葉樹の植林を呼びかけました。平成元年（一九八九年）、大川の上流の室根山に色とりどりの大漁旗が何百枚とはたまきました。「森は海の恋人」を合い言葉に、畠山さんたち漁師による森づくりの植林が始まったのです。植林には、畠山さんの主旨に賛同した森林組合の人たちも大勢手伝い、ミズキ、ミズナラ、ブナなどの落葉広葉樹が植えられました。

まさに、海の民と森の民が自然とのつながりを回復させるために立ち上がったのでした。その後十二年を経過し、それまで植えられた木は五十種、三万本になりました。やがて、川にはウナギが帰ってきました。海岸にも小さいエビやタツノオトシゴなどが増えてきました。もちろん、カキやホタテの貝の成長もよくなり、もう赤いカキができることはありません。気仙沼の自然は、少しずつよみがえってきたのです。

（参考＝畠山重篤著『漁師さんの森づくり―森は海の恋人』講談社）

東京港野鳥公園

行事カレンダー

東京港野鳥公園管理事務所（TEL3799-5031）



★定例行事

開催日	行事名	申込方法	内容
毎週日曜日	ショートプログラム	—	10分～40分位のスライドショーや観察会です。
毎月第2日曜日	潮入りくると観察会	当日受付	グリーンボランティアの案内で、普段入ることの出来ない保護区の植物や野鳥を観察します。

★各月の行事

開催日	行事名	申込方法	内容
6	12日 (公園探検隊) 宝探しアドベンチャー	・電話 ・6/1～6/11	野鳥公園には不思議がいっぱい。隊長と一緒にとおきの宝物をさがそう！
	19日 (ボランティア体験) 干潟のピオトープ作り	・電話 ・6/1～6/18	潮入りの池の干潟に多くの生き物が暮らせる環境を作り出す試みを毎年行っています。
	26日 カニのすみかを作ろう (第1回 <全2回>)	・往復はがき ・6/9締切	干潟や岩場にすむカニを観察し、カニのすみやすい場所をつくって、調べよう！
7	3日 (公園探検隊) 土の中の生き物をさがそう	・電話 ・6/1～7/2	土の中にはアリよりも小さな生き物がたくさんいるよ。隊長といっしょに探検に行こう。
	9日 子どもひがたどろんこ隊	・往復はがき ・6/16締切	野鳥公園の干潟で、子どもだけでどろんこになってあそぼう！
	18日 祝 (ボランティア体験) 干潟クリーンアップ大作戦	・電話 ・7/1～7/17	あなたにもできる身近な自然保護。前浜干潟のゴミを拾って、干潟をきれいにします。
	23日 土 カニと友だち	・往復はがき ・7/7締切	野鳥公園の干潟にはカニがたくさん！じっくり、ゆっくりカニをみてみましょう！
8	24日 日 フジツボの子どもを見てみよう <全2回>	・往復はがき ・6/30締切	フジツボはどうやってくつくのでしょうか？夏休みの自由研究に最適！
	31日 土 カニと友だち	・往復はがき ・7/21締切	野鳥公園の干潟にはカニがたくさん！じっくり、ゆっくりカニをみてみましょう！
9	4日 日 干潟の鳥を見てみよう	・電話 ・8/1～8/19	8～10月は、シギ・チドリなどの鳥たちが渡りの途中で園内の干潟に立ち寄ります。
	17日 土 カニのすみかを作ろう (第2回 <全2回>)	・電話 ・8/1～9/3	8～10月は、シギ・チドリなどの鳥たちが渡りの途中で園内の干潟に立ち寄ります。
9	4日 日 カニのすみかを作ろう (第2回 <全2回>)	・往復はがき ・6/9締切	干潟や岩場にすむカニを観察し、カニのすみやすい場所をつくって、調べよう！

*詳しい内容は、上記管理事務所にお問合せ下さい。

城南島海浜公園に『スケボー広場』と『第2キャンプ場』オープン

城南島海浜公園管理事務所（TEL 3799-6403）

都立公園として初めてのスケートボード、インラインスケート、BMX（バイシクルモトクロス）が楽しめる「スケボー広場」が平成17年4月23日にオープンしました。施設は無料で、午前8時30分から季節に応じて5時、6時、7時まで利用できます。

利用にあたっては、最初に管理事務所で利用者登録をしていただき、城南島のステッカーをヘルメットに貼って利用します。なんと、今では270名以上の登録者がいます。

スケートボードは、危険なスポーツのためヘルメットを付けることを最低限のルールにしています。しばらくは、ルールが定着するまでスタッフの目が離せません。

設備は、7種類のセクションが設置されました。なかでも、日本に数少ない高さ約2メートルのミニランプは、愛好者にとっては魅力的なセクションです。休日になると、子供から若者までスケボーやインラインなどで譲り合って利用しています。ここは、初心者から中級者まで楽しめる新しいスポーツの広場です。

また、スケボー広場オープンと同時に第1航路側に日帰り専用の“第2キャンプ場”も開設されました。サイトは18サイト、既存のキャンプ場（第1キャンプ場）と同様にテーブルとかまどが付いています。第1キャンプ場の予約がいっぱいになりましたら順番に予約していきます。今では、週末ともなると大きな船や飛行機を眺めながら、家族連れやグループがバーベキューを楽しんでいます。

さて、今年も城南島海浜公園では、子供たちの七夕まつり、大田区民によるバーベキュー会やクリーンアップなどのイベントを予定していますので、詳細については、上記管理事務所にお問合せ下さい。

編集後記

城南島タイムズは、読者の声の欄や掲示板コーナーをさらに充実させていきたいと思っています。皆様の積極的な活用をお願いいたします。

(財)東京港埠頭公社 城南島連合会新聞委員会

※この用紙は再生紙を使用しています。

城南島タイムズ



城南島周辺で動いている公共の事業

コアジサシ営巣の支援活動中！

東京都下水道局森ヶ崎水再生センター（TEL3744-5981）

コアジサシは、春から夏にかけてオーストラリアなどから日本に来て営巣をする全長約28cmのカモメ科の渡り鳥です。営巣地となる砂浜や河川敷が徐々に減るにつれ、生息数が減り、今では環境省レッドデータブックで絶滅危惧種Ⅱ類の指定を受けています。

昔から営巣が見られた城南島周辺地区も、徐々に営巣適地が減少する中で、平成13年に当センターの屋上で営巣していることが発見されました。しかし、コンクリートむきだしの屋上では風や雨で飛ばされたり割れたり、巣立った雛はわずかに5羽のみでした。

このため、当局では、平成14年以降、リトルターン・プロジェクト（自然保護団体のNPO）、地元大田区との三者で連携し、屋上に敷石を行い、排水口を整備するなど、コアジサシの営巣活動を支援する取り組みを行ってきました。

この結果、平成14年には約600羽、平成15年には約1,600羽の雛が当センターから巣立っていきました。国土交通省いきいき下水道賞や全建賞を受賞するなど、世界的にも例の少ない人工営巣地の

都内から発生する建設土などは埋立用材として活用されています

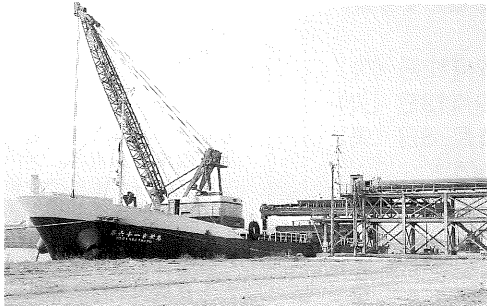
財団法人東京港埠頭公社環境事業部建設発生土管理事務所（TEL3790-2471）

東京都内の公共事業から、平成16年度実績で年間約320万立方メートルの建設土が発生しています。このうち、約8割にあたる255万立方メートルを「広域利用建設発生土処理事業」、「新海面埋立地及び中央防波堤外側埋立地（その1）建設発生土処理事業」及び「豊洲・晴海地区再開発事業」の埋立用材として、また東京港から発生する水底土砂（しゅんせつ土砂）は、埋戻し用材として活用されています。

当建設発生土管理事務所では、これら各事業を東京都から受託し、建設発生土の受入れから積出し・揚土及び埋め戻し事業を行っています。

◆地方港湾の埋立用材として活用

「広域利用建設発生土処理事業」は、都内の公共事業から発生した建設発生土を大田区城南島にある積出基地で受入て、船舶で海上輸送を行い（写真-1 船舶による積出し）、地方港湾の埋立用材（物流用地、工業用地及び空港関連用地の造

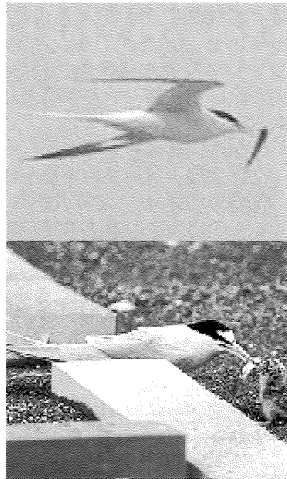


(写真-1 船舶による積出し)

成功例となりましたが、残念ながら平成16年にはほとんど営巣がありませんでした。草が生えすぎたこと、カラスの襲撃があったことなど様々な課題が浮かびあがり、再び、三者で協議し、また、多くのボランティアの協力を得て、今年の営巣対策を講じました。

現在、コアジサシの飛来情報が寄せられ、森ヶ崎の干潟でも観察され始めました。多くの関係者に育まれた当センターの営巣地で、多くの雛が無事に巣立つことを心から期待しているところです。

なお、営巣地は営巣保護のため通常は非公開となっておりますが、7月2日にコアジサシ観察会が予定されていますので、その際に営巣地をご覧いただければ幸いです。（飛来状況、観察会の詳細はhttp://www.metro-npo.net/littletern/）



成）として活用することで、都市問題の一つである建設発生土の問題を解決し、一方では、地方圏における開発に伴う環境問題を解決するための事業です。

主な積出先としては、港湾としては広島県広島港、徳島県栗津港など、また空港関連としては、愛知県中部空港があります。

◆東京港及び都市再開発用埋立用材として活用

現在、東京都港湾局では、中央防波堤外側とさらにその沖合いに新海面処分場埋立事業（写真-2 浮桟橋による撤出）を、また豊洲・晴海地区の再開発のための外周護岸と護岸背後の埋立事業を行っています。

この埋立事業にも、都内の公共事業から発生した建設発生土が優先して（一部民間事業も受入れ）埋立用材として活用されています。

◆水底土砂は、埋戻し用材として活用

千葉県検見川沖等には、赤潮や青潮発生の原因といわれる水深約25mの深掘り部があります。このため、漁場環境の改善事業として、東京都と千葉県との協定により、東京港から発生する水底土砂を埋戻し用材として活用していますが、当所では、千葉県側の受入れと埋戻し工事を行っています。

このように、当建設発生土管理事務所では、首都圏と地方圏における環境問題を解決するリサイクル事業として、広範囲にわたる建設発生土処理事業を展開しています。



(写真-2 浮桟橋による撤出)

